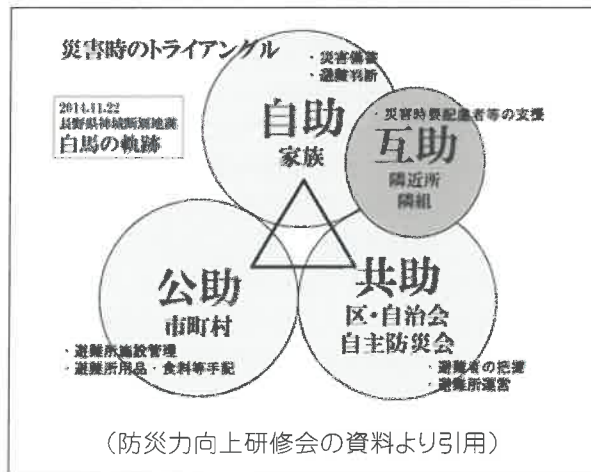


防災力向上研修会

8月7日

第6次男女共同参画計画(2018年度~2022年度)の、課題4地域・社会活動における女性の参画の促進②防災分野における女性の参画の促進(～男女の視点を生かした防災体制～)として取り上げられていることを前提にして、30年以内に発生する確率の高い地震で、諏訪地域に影響があるものは①南海トラフ巨大地震60%~70%②首都直下型地震70%③糸魚川-静岡構造線断層帯13%~30%となっている。地域の社会活動の具体的な役割分担として、平成26年11月22日長野県神城断層地震「白馬の軌跡」災害時のトライアングルとして紹介されている。



笠原 敏彦さん

諏訪防災ネットワーク(令和2年6月27日設立)発起人の一人。

防災士をはじめ地域防災の担い手の養成など、防災に関する深化・技術の向上や行政関係機関とのネットワーク構築を目的とする団体。

R2.12月現在の会員数 個人25、団体5。

さらに避難所における女性の役割について、避難所の計画策定段階から女性が参加し、女性の視点から意見を計画に反映させる必要があること。女性リーダーの育成や女性を運営責任者や他の業務の責任者として配置すること。また過去の震災で学んだ教訓として、「災害の種類や規模の把握」「ハザードマップの利用」「避難場所は複数の場所を想定しておく」「繰り返し避難訓練の実施」「避難所では自発的に助け合いを実施する」等避難者が一体となって助け合う心が大切としている。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の避難対応も余儀なくされた年でもあり、親戚・知人宅や自宅二階への避難や車で避難する場合のルート確認の他に①風邪の症状があってもまず避難②避難所では3密対策に協力③体温計・マスクは必需品(非常持ち出しに追加)④手洗い・消毒、マスクの着用を挙げ、まずは毎日の健康チェックで予防することが大事だと話されました。以上、防災力向上研修会で学んだことを踏まえて、いざという時に慌てず行動できるようアンテナを高く掲げて、日頃から関心力を磨いていきたいと思ひます。

そうだ！諏訪防災ネットワーク会員になることから始めよう。(久保田正彦)



編集後記

新型コロナウイルス感染症の流行で生活が急激に変化しました。自粛生活の中、いきいき市民推進チーム☆輝くSUWAの定例会もイベントも中止になりました。現在は、感染防止対策をして定例会を行っています。『男女共同参画社会づくりにむけての全国会議』や『日本女性会議2020あいち刈谷』もリモートで行われ、市役所の会議室より参加しました。現地では経験できない人との交流は出来ませんが、学びは沢山ありました。そして、AIを活用した新しい取り組みに今後も期待したいです。コロナ禍でも出来ること、取り組めることに着目して『誰もがともにいきいきと暮らせる諏訪市』を目指して前進していきたいと思ひます。(中嶋博美)

男女共同参画情報紙



私たち「いきいき市民推進チーム☆輝くSUWA」は、市と協働して男女共同参画社会の実現を目指し取り組んでいます。今年度に行った主な活動について紹介します。

諏訪市議会女性議員との懇談会

11月12日

5名の女性議員をお迎えして懇談会を開催しました。地元出身や県外出身の女性議員から様々な視点でご意見を頂きました。男社会の枠組みの中で、自分の周りの些細なこと、身近な情報などを吸い上げて女性目線で粘り強く市を変えていきたいという熱意に、これからの女性議員の活躍に期待したいと思います。そして、チームのメンバーからの提案で新たな諏訪名物を作るのはいかがでしょうか、和気あいあいとした懇談会でした。(白井千智)

「市議会議員の1/3が女性」の快挙から1年半が経過、5人が各々の分野で活躍されています。コロナ禍で活動もままならない中、現在に至るまでの思い、議員を目指した動機など、忌憚のないお話を伺いました。皆さんの共通の思いとして、「議員になるためには、家族の理解や協力がなくてはできない。」「日頃の生活の中で、市民の声を聞き、小さな気づきも大切に、粘り強く取り組み、やがて大きな広がりとなる。」「諏訪の名物、特産品、土産品の特色の見直し、食文化の個性を大切に、もう少し掘り起こしてみる。」がありました。短時間ではありましたが、女性の視点での貴重な思い、意見を聞くことができました。一人一人の力が5倍になれば大きな力となって、これからの諏訪市を牽引してくれると期待したいです。(鴨志田明子・坂本あけみ)



岩波万佐巳議員

行政出身の経験を活かし、市民の声を市政に届けていきたい。選挙戦が大変だった。人と人との繋がりが宝。変えられるものは変えていきたい。

小山 博子議員

諏訪に来て2年。諏訪は四季の移り変わりがはっきりしていてとても美しいところ。諏訪湖のヒシの食用化に携わっている。質問を常にし続け、安心して暮らせるまちづくりをしたい。

高木 智子議員

諏訪に来て18年。発達障がいの子もたちとの関わりが、議員を目指すきっかけとなった。発達障がいなど、特に子ども・教育・福祉の分野に市民の声を拾い上げていきたい。

廻本多都子議員

議員4期目。初めは議会の常識や男社会に戸惑いがあった。今は女性議員が増え心強い。仕事の延長線上での気づき、見直しを提案したい。

森山 博美議員

議員2期目。はじめての質問はトイレ問題。その後も学校トイレの多様化や美化活動を続けている。観光面をなんとかしたい。

諏訪市議会女性議員から懇談会のコメントをいただきました

森山議員



とても話が盛り上がり楽しい会でした。お招きいただきありがとうございました。議員ではありますが、諏訪の伝統食など全く知りませんでしたので、「ぬたもち」など食べてみたいです。それぞれの家庭の味があるのでしょうか。ぜひ「諏訪を食べる会」としていろいろな伝統食文化を教えてくださいたいと思いました。

岩波議員



それぞれの議員になったきっかけや考え方がわかり、また私自身の考え方もわかってもらえてよかったと思いました。県外から来られた議員からの発言により、「諏訪の郷土食は何か?」ということで意見が交わされ、「ぬた餅を一緒に作ってみよう」というところまで話が進みよかったと思います。諏訪市をPRしていくひとつになるかもしれません。是非実現したいと思います。

廻本議員



一言で楽しかった。くらしに向き合っている女性目線ならではのご意見ありがとうございました。

高木議員



他の議員の「議員になったきっかけ」をじっくり聞く機会も今までなかったので、楽しかったです。チームの皆さんのお考えや活動が聞けたこともよかったです。ありがとうございました。

小山議員



先日はありがとうございました。お一人お一人が、地域にねぎし地域の活性化に力を注がれていることに感動し感謝です。諏訪の自然は大好きですが、諏訪を選んでもらうならそこに「諏訪の〇〇が食べたいね」と言われる何かが必要かなと感じています。既存の名物も大切ですし、新たな名物もあって良いと思います。これからも、諏訪地域の発展のためによりよくお願いいたします。



男女共同参画社会づくりに向けての全国会議(オンライン会議) 6月29日

男女共同参画社会づくりに向けての全国会議が、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、今年度初めての試みとして動画配信で行われました。会場として用意してもらった市役所大会議室でチームのメンバー7名と視聴参加しました。初めの主催者挨拶・特別応援メッセージは通信状況が悪かったため見れませんが、パネルディスカッションはしっかりと話を聞くことができました。「自分らしい人生を実現するため」と題して企業・大学・NPO法人の方の話があり、「ワーク・ライフ・ソーシャルのハイブリット」異質なものを組み合わせることが面白い、「寄せ鍋人生」の自分は鍋奉行という考え方、また「子育ては地域デビューのパスポート」という言葉も印象的でした。今回のような形式であれば多くの方が参加できるし、行き帰りの時間も短縮できていい方法かもしれないと思いました。



(岩波万佐巳)



日本女性会議2020あいち刈谷(オンライン会議) 11月13日~14日

基調講演「コロナ禍とジェンダー」 講師：上野 千鶴子(社会学者 / 東京大学名誉教授)

「全国一律休校要請」により、大きなしわ寄せがきたのは母親だと感じる。子どもの世話や家事負担の増加、仕事を休めば収入が減る。今や10人中6人が非正規雇用者で7割が女性と言われ、テレワークも正規雇用者に限られていた。正規雇用者と非正規雇用者に賃金格差がある。また離婚も3組に1組と増え、ひとり親家庭にも打撃となった。親の貧困は子どもの貧困に繋がっている。そんな中でも体力や経済など下り坂の自分を助けてくれる人がいる。能力やスキルがなくても他人に助けを求める力があればいい。「弱った」「困った」と弱音を吐くことができたり、全盲や難聴でも楽しんで生活できる、安心して「要介護」「認知症」「障がい者」になれることが大事。誰か一人に深く依存せず、頼れるところがいくつかある安心できる社会にしていきたい。テレワークの普及によりDVや虐待など家庭内暴力の危険性が懸念され、政府はSNSチャット相談窓口を設置した。かつては「男は仕事、女は家事」と言われていたが今は新しい形の性別役割分担ができ始めている。世界では女性リーダーが7%と多くなってきている。女性リーダーが生まれる条件は「民主主義を問わない政治。」共感力・判断力は矛盾しないし、能力に応じて再配分を機能させるには女性が向いている。ただし、女性を増やせばいいものではなく、何のための男女共同参画なのかを考えていく必要がある。フェミニズム



=弱者のままで尊重できる社会。ノプレス・オプリージュ=余裕のある人がない人に手を貸し支えあって生きる。弱者として生まれ、強者は必ず弱者になっていき、強者のままではいられない。それはDVにも当てはまる。暴力とは権力の乱用と言い換えることができる。夫婦が親になった時、介護者を介護する側になった時に、自分の思うようにしたいという思いは、加害者にも被害者にもなりうる。非暴力を学んでほしいと述べられました。

基調講演をとおして、子育てから遥か時がたった現在、改めて子育て中の家庭に思いを寄せ、非正規雇用者の現状を考える機会となりました。また、安心して「要介護」「認知症」「障がい者」になれる。頼れるところがいくつかある。「そのような人間関係を元気づけながら自分で築いておくことが大事なことだ」と学ぶことができました。(高橋美保)

「日本女性会議2020あいち刈谷にオンラインで参加して」

今年はコロナ禍でオンラインでの参加となりました。会場に行って話を聞くのとは違い長所短所がありました。1日目は市役所でみんなとゆったり、はっきり視聴し、2日目は自宅のパソコンで聴講することができました。この原稿を書くにあたり、アーカイブ配信でもう一度見て理解度を増しました。次の2講座の感想を述べたいと思います。



●分科会A 高齢社会 人生100年時代高齢社会づくり

Studio-L代表山崎亮さんの講演は解りやすく具体的でした。4つの事例がコミュニティーデザインとして示され、高齢社会を楽しくいきいきとすごせるように、男女共同参画の視点に立った新たなつながりや、地域共生について語られました。最後にコロナが収まっても高齢社会づくりには、オンラインが必須条件といわれました。

●記念講演 女性が社会を動かすとき 日本骨髄バンクのケースから

講師の大谷貴子さんは大学院生の時白血病になり、母親から骨髄移植を受け完治しました。骨髄バンクの必要性を思い署名運動を広げ骨髄移植推進財団の設立の立役者の一人となりました。この話も1つずつ具体的な話で納得がいくものでした。コロナ禍において、病院などの施設にWi-Fiの必要性を強く強調されました。デジタル庁もできることだし、これからの将来は明るいと思われました。

(守屋輝代)